WOODEN TOY

MOLLY'S BIG ADVENTURE

きのおもちゃモーリーのだいぼうけん

きのおもちゃモーリーの
だいぼうけん

きのおもちゃモーリーの
だいぼうけん

作・絵：池谷　剛一

モーリーは　きで　できた　ロボットの　おもちゃです。

やまのなかの　もりで　うまれ、
いまは　みんなの　すむ　あまがさきの
「なかよしえん」に　すんでいます。

なかよしえんの　みんなは　モーリーが　だいすきで、
まいにち、 いっしょに、たのしく　あそんで　いました。

ところが　あるひ、プラスチックで　できた　おもちゃ
「プラジャック」が　やってきました。
プラジャックは、ひかったり、うごいたり、みんなは、
あっというまに　プラジャックに　むちゅうに　なりました。

モーリーは　みんなが　あそんでくれなくなったので、
さびしくなり、へやのすみっこで　ないていました。
「ぼくも　プラジャックみたいに　なりたいな …」

そのとき、モーリーは　じぶんを　つくってくれた
おじいさんのことを　おもいだしました。
**「そうだ！　ぼくも　プラジャックみたいに　かいぞうして
もらおう！」**

モーリーは　おじいさんに　あうために　じぶんが
うまれたもりへ　たびにでることに　しました。

あさはやく、なかよしえんを　とびだした
モーリーでしたが、どっちへ　いけばいいのでしょう？

「そういえば、ぼくが　うまれた　もりは　かわが
ながれていたな。かわに　そって　やまのほうへ
いけば　おじいさんに　あえるかも　しれない！」
モーリーは　かわにそって　あるきだしました。

ねこに　おいかけられたり、けわしい　やまみちを
のぼったりしながらも、モーリーは　なんとか　もりまで
たどりつくことが　できました。

しかし、たどりついた　もりは　なんだか　モーリーが
しっている　もりとは　ちがうみたいです。

やせっぽっちの　きが、せまそうに　ぎゅうぎゅうに
はえていて、たいようのひかりが　とどかず、
ひるまなのに、あたりは　まっくらです。
ことりの　さえずりも　きこえません。

ぴゅーと　かぜが　ふくと、ばたーん！と
やせっぽっちな　きが、たおれて　きました。

モーリーは　こわくなって　なきだしました。

「えーん、えーん、ここはどこー、
おじいさんに　あいたいよー」

そのときです。 こーん、こーんと　きを　きる　おとが
きこえてきました。
なんだか　なつかしい　おとです。
モーリーは　いそいで　おとのするほうに　かけだしました。

すると、あたりは　どんどん　あかるくなってきて、
おおきくて　りっぱな　きが、ゆったりと　はえています。
ことりも　ちゅんちゅんと　うたを　うたっています。
モーリーが　うまれた　もりです。

「あっ！　おじいさんだ！」
モーリーは　おじいさんに　かけよります。

「モーリー　よくきたね」
おじいさんは　やさしく、モーリーを　だきしめました。
「きょうは　もうおそいから、とまっておいき」

モーリーは　おじいさんが　すんでいる　ちいさな
こやに　つれていって　もらいました。
そして、モーリーは　いままでのできごとを　おじいさんに
はなしました。そして　いいました。
「ぼくを　プラジャックみたいに　かっこよくして　ほしいんだ」

おじいさんは、「うん、うん」と　やさしくモーリーの
はなしを　きいてくれました。そして　いいました。

「モーリー、つらいおもいを　したね。でも、きみは
きみのままで　いいんだ…　きみが　うまれたことには
おおきないみが　あるんだよ」

「ぼくが　うまれた　いみ？」

「ここにくる　とちゅうに　くらいもりが　あっただろう？
モーリーが　うまれた　このもりと　なにがちがうか　わかるかい?」

「うーん、わからないや」

「あのもりに　ひかりが　とどかなくなったのは、だれも　きを
きらなかったからなんだ。きを　きって　あげたほうが　もりは
げんきになるんだ」

「きを　きっても　いいの？」

「きりすぎは　よくないけど、ぎゅうぎゅうに　きが　はえていると、
したの　はっぱまで、ひかりが　とどかなくなって　しまうんだ。
きは　おひさまのひかりを　あびて　おおきくなるからね。
ひかりが　とどかないと　おおきくなれないんだ」

**「だから、あのもりは　くらくて　やせっぽちの　きばかり
だったんだね」**

「そんな　げんきのないもりを、あかるくて　げんきなもりに
するために、わしは　きを　きっていたんだよ」

「もりが　げんきだと、なかよしえんの　みんなにも
いいことが　いっぱいあるんだ」

「いいこと？」

「たとえば、もりは　ものが　もえたときに　でる　けむりのような
きたないくうきを　すって、きれいなくうきに　してくれるんだ」

**「ぼくたちが　きれいなくうきを　すえるのは　もりの
おかげなんだ！」**

「ほかにも、げんきなもりは　たくさん　あめが　ふっても
こうずいに　ならないように、あまみずを　すいこんで
くれるんだ。そして、すいこんだ　あまみずを、
ゆっくりゆっくり、きれいなみずに　してくれるんだよ」

**「そうなんだ！　とおくの　もりが、ぼくらのまちを　まもって
くれたり、かわを　きれいに　してくれていたんだね」**

「モーリー、どうして　わしが　きみを　つくったか
わかったかな？」

**「おじいさんは　きを　きって、ぼくを　つくることで、
もりを　げんきに　していたんだね」**

「でも、それだけじゃないんだ」

「ほかにも　あるの？」

「なかよしえんの　みんなに　きのよさを　しってもらいたいんだ。
そして、きで　できたものを　つかって、げんきなもりを
ふやす　おてつだいを　してほしいんだ」

「きのよさ？」

「モーリー、きみは　とってもいいかおりが　するよ。
きの　やさしいにおいだ。 さわると　すこしやわらかく、
あたたかい　きもちに　なれるんだよ。
プラジャックくんみたいに　ならなくても、きみには　きみの
よさが　あるからね。
むねを　はって　かえりなさい」

モーリーは　おじいさんのはなしを　きいて、じぶんが
ほこらしくおもえ、やさしい　きもちのまま　ねむりに
つきました。

あさ、めをさますと　なんだかこころが　かるくなっていて、
そらも　とべそうです。いますぐ　なかよしえんの
みんなのもとに　とんでいきたい　きもちに　なりました。
**「おじいさん、ほんとうに　ありがとう。ぼくは　みんなに
あいに　なかよしえんに　かえるよ」**

「それが　いいね。モーリー、あたまの　プロペラを
まわして　ごらん」
モーリーが　プロペラを　まわしてみると、からだが
ふわっと　うかびあがり、みるみるうちに　そら　たかくまで
とんでいきました。

モーリーは　いそいで　なかよしえんに　むかいます。

そのころ、なかよしえんでは　みんな　モーリーを
さがして　いました。

「モーリー　どこ　いっちゃったんだろう？」
「モーリーと　あそびたいよ」

なかよしえんの　みんなは　もう　モーリーの　よさを
しっていました。
やさしくて、いいかおりの、きでできた　モーリーのことを、
みんなは　ずっと　だいすきだったのです。

すると　そらから　モーリーが　かえってきました。
「モーリーだ！」
みんなは　おおよろこびで　モーリーに　かけよります。

だいぼうけんから　かえってきた　モーリーは、 なんだか
すこし　おにいさんに　なったみたい。
そして、モーリーは　ゆっくりと　ぼうけんのこと、もりのこと、
じぶんの　うまれたいみを　かたりはじめました。

みんなは　もりのたいせつさや、きをつかうことのいみを
モーリーから　おしえてもらいました。

ありがとう、モーリー、
これからも　ずっといっしょに　あそぼうね。

おしまい。

私たちと森のおはなし

保護者の方へ

森林は遥か昔から、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれており、生活に欠かせない存在です。例えば、建物や家具に用いる木材や燃料となる薪などを供給してくれたり、キャンプやハイキングを楽しむ場所となったりしています。

また、森林に降った雨はフワフワのスポンジのような土に染み込み、蓄えられ、ろ過されながら少しずつ川に流れていきます。おいしい水が飲めるのも、雨が降っても川がすぐに氾濫しないのも　森林のおかげで、森林が身近にない尼崎でも川を通じてその恩恵を受けています。

ところが、今、私たちの生活に欠かせない森林に様々な問題が起きています。

この絵本をきっかけに、森林のこと、木のこと、そして私たちにできることを考えていただければ嬉しいです。

尼崎市

この絵本のねらい

放置林

絵本 8 ページ

間伐林

絵本 10 ページ

「きのおもちゃモーリーのだいぼうけん」は木育[※1]をテーマにした内容になっています。8ページのシーンは森林が直面している課題です。間伐[※2]がされず昼間でも真っ暗で、1本1本の木は細く、地面はむき出し。このような間伐されていない森林が全国各地にあるのです。もちろん兵庫県も例外ではありません。10ページではおじいさんが管理している森林の様子が描かれています。間伐を行うと太陽の光が差し込み、森が豊かになります。絵本では人々が森林から受けている恩恵をモーリーとおじいさんの会話からこどもたちに伝わるように描いています。

※1 木育：こどもをはじめとするすべての人が木とふれあい、木に学び、木と生きる取組です。それはこどもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。
※2 間伐：森林の木々がお互いの日光や栄養を奪い合って育ちを阻害するのを防ぐために樹木の成長度合いや形状などを考慮して木を間引いていく作業のことです。

森林の現状

人工林

天然林

林野庁のデータを元に作成

日本の森林は、かつて戦争の燃料・物資や戦後の復興の資材として利用するために大量に伐採され、大きく荒廃しました。その後盛んに植林が行われたおかげで、森林蓄積量[※3]は年々増加し、今、日本の森林資源は充実しているといえます。

一方で、豊富な森林資源があるにも関わらず、その活用が適切にされていないことや、手入れ（間伐など）が行き届いていないといったことが問題になっています。

※3 森林蓄積量：森林を構成する樹木の体積のことです。

手入れ不足の森林の問題点

森林には本来、雨水を蓄え、きれいにしたり土砂災害を防止したりする機能があります。これは下草やコケ、微生物などにより雨水が吸収され、ゆっくりとろ過されることによるものです。

一方、間伐がされず光が届かない森林では下草などが生えないため、その機能が十分に発揮されません。

また、木材を収穫するために伐採する場合、多くは皆伐と呼ばれる方法で伐採されます。

しかし、皆伐された森林の3割程度しか植林が行われておらず、多くは「はげ山」のような状態になっています。その状態もまた雨水を蓄えられず、土砂災害などが起こりやすくなります。

このように、森林に手を入れなかったり、伐採したあとに植林しなかったりすると、森林のもつ機能が十分に発揮されないのです。

森林のもつ機能は他にも

木は地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収しますが、若い木のほうが二酸化炭素をたくさん吸収します。そのため、大きくなった木は伐採し、そこに新しい木を植えたほうが地球温暖化防止の効果が高くなります。

間伐や皆伐後の植林が進まない原因

林業従事者の数は年々減少しており、間伐や、植林する人たちがいなくなってきています。その背景には、林業が昔に比べて儲からなくなったことがあります。

儲からなくなった理由には外国産材との価格競争や、国産材の需要が住宅の柱や梁などに使われていた単価の高いものから、合板や紙の原料、燃料材など単価の低いものに変わってきたことがあります。

十分な利益の確保が難しくなったことで、林業を仕事にする人が減ってしまい、森林の適切な管理が難しくなってきています。

私たちができること

持続可能な森林サイクル

これらの問題を解決するためには、持続可能な森林サイクル（上図）を上手に回す必要があります。

森林が身近にない都市部である尼崎では、特に「使う」の段階、すなわち木材を消費するという視点から、この問題の解決に向き合っていくことができます。

木材を使うことで需要が増えれば、林業が活性化し、森林の適切な管理につながります。

皆さんも家具やおもちゃなどを選ぶ際には、国産材や兵庫県産材を使った木製品を検討してみてください。

尼崎市の木育事業

尼崎市ではこどもたちが「遊び」を通じて木への親しみや森林の大切さの理解を深めることを目的として、本市が実施する木育事業に参加いただいた市内の幼稚園・保育所などへ積み木・玩具や紙芝居、絵本を配付する取組を行っています。

配付している積み木は1セット520ピースと大人数で創意工夫しながら遊べるだけでなく、全て兵庫県産材で作られており、複数の樹種を用いることで手触り、色、香りなどに違いがあることを実感しながら遊べるものとしています。（写真）

また、紙芝居で森林が身近にない尼崎でも森林の大切や木のよさを知ってもらえるようにしているほか、絵本に登場するモーリーを実物の木のおもちゃとして配付しています。

なお、この絵本は紙芝居と同じ内容となっていますので、ご家庭でも幼稚園・保育所などの様子を聞きながら、絵本を読んでいただき、森林の大切さや木のよさを知ってもらいたいと思います。

池谷　剛一（いけや　よしかず）

1969 東京生まれ
多摩美術大学卒業

主な作品
「そして僕は天使になった」
「てがみがもしもとどくなら」（パロル舎）
「世界にひとつしかクリスマスツリーがなかったら」（絵本の杜）
絵本作家活動と並行し、全国の幼稚園保育園を中心に絵本ライブやライブペイント等を精力的に活動中。

きのおもちゃモーリーのだいぼうけん

令和 5 年 12 月 25 日発行

作・絵　池谷 剛一
企　画　株式会社なかよしライブラリー
発　行　尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課
〒 660-8501
尼崎市東七松町 1 丁目 23 番 1 号
印刷・製本　小宮山印刷工業株式会社